

製品名: PLC β 3 (リン酸化 Ser1105) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05282**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	160kDa

抗原情報

遺伝子名	PLCB3
別名	PLCB3; 1-phosphatidylinositol 4; 5-bisphosphate phosphodiesterase beta-3; Phosphoinositide phospholipase C-beta-3; Phospholipase C-beta-3; PLC-beta-3
遺伝子 ID	5331.0
SwissProt ID	Q01970
免疫原	抗血清は、Ser1105 のリン酸化部位周辺のヒト PLCB3 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 1071-1120

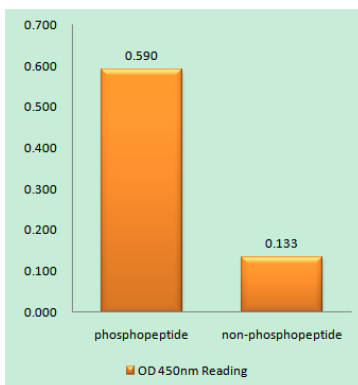
背景

この遺伝子は、G タンパク質結合受容体を介したシグナル伝達においてホスファチジルイノシトールから二次メッセンジャーであるジアシルグリセロールとイノシトール 1,4,5-三リン酸の生成を触媒するホスホリパーゼ C ベータ酵素ファミリーのメンバーをコードします。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2010年5月],触媒活性:1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール 4,5-ビスリン酸 + H(2)O = 1D-ミオイノシトール 1,4,5-トリスリン酸 + ジアシルグリセロール。補因子:カルシウム。機能:セカンドメッセンジャー分子であるジアシルグリセロール(DAG)とイノシトール 1,4,5-トリスリン酸(IP3)の生成は、活性化ホスファチジルイノシトール特異的ホスホリパーゼ C 酵素によって媒介される。類似性:1つの C2 ドメインを含む。類似性:1つの PI-PLC X ボックスドメインを含む。類似性:1つの PI-PLC Y ボックスドメインを含む。サブユニット:SHANK2 と相互作用する(類似性による)。 LPAR2 と対話します。、

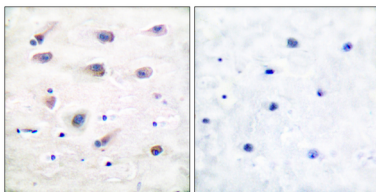
研究分野

幹細胞経路; WNT; WNT-T 細胞; β-カテニン; AMPK

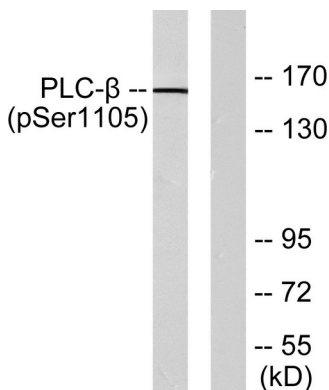
画像データ



PLCB3 (リン酸化 Ser1105) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



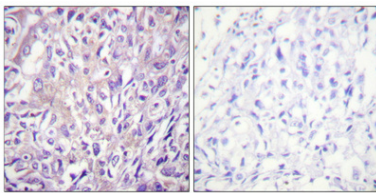
PLCB3 (リン酸化 Ser1105) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



PLCB3 (リン酸化 Ser1105) 抗体を用いた A431 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホ PLC β 3 (S1105) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた各種細胞のウエスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。